

経 済 港 湾 委 員 会 記 録 (No.11)

1 日 時 令和7年10月3日(金)
午前 9時59分 開会
午前11時13分 閉会

2 場 所 第3委員会室

3 出席委員(9人)

委 員 長	渡 辺 修 一	副 委 員 長	三 宅 まゆみ
委 員	菊 地 公 平	委 員	上 野 照 弘
委 員	香 月 耕 治	委 員	富士川 厚 子
委 員	大 石 正 信	委 員	井 上 しんご
委 員	松 尾 和 也		

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

産業経済局長	柴 田 泰 平	企業誘致・農林水産担当理事	山 口 博 由
総務政策部長	白 石 慎 一	地域経済振興部長	丸 山 保
雇用・産業人材政策課長	中 川 茂 俊	中小企業振興課長	藤 原 国 久
農林水産部長	北 野 大五郎	農 林 課 長	下 元 昭 二
農林施設担当課長	齊 藤 敬	港湾空港局長	倉 富 樹一郎
総 務 部 長	吉 永 一 郎	港湾工事担当部長	井 上 康 一
工 事 課 長	牛 島 和 充	空港企画部長	黒 岩 亮
空港機能強化担当部長	須 山 孝 行	旅客営業担当課長	西 田 淳 哉
空港機能強化担当課長	田 中 啓 之		外 関係職員

6 事務局職員

議 事 課 長	木 村 貴 治	書 記	西 嶋 真
---------	---------	-----	-------

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	審査日程について	3日は議案の審査、6日は議案の採決及び所管事務の調査を行うことを決定した。
2	議案第135号 令和7年度北九州市一般会計補正予算（第3号）のうち所管分	議案の審査を行った。
3	議案第137号 令和7年度北九州市港湾整備特別会計補正予算（第1号）	
4	議案第140号 令和7年度北九州市空港関連用地整備特別会計補正予算（第1号）	

8 会議の経過

○委員長（渡辺修一君）開会します。

本委員会に付託された議案は、お手元配付の一覧表のとおり、3件であります。審査日程については、本日は議案の審査を行い、10月6日は議案の採決及び所管事務の調査を行います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

ただいまから議案の審査を行います。

議案第135号のうち所管分、137号及び140号の以上3件について一括して議題とします。審査の方法は、一括説明、一括質疑とします。当局の説明は、できるだけ要点を簡潔、明瞭にお願いいたします。なお、議案の説明は着席のまま受けます。

それでは、説明を受けます。総務政策部長。

○総務政策部長 産業経済局所管分の議案は、補正予算議案1件でございます。

議案第135号、令和7年度北九州市一般会計補正予算のうち産業経済局所管分につきまして、タブレット端末資料の北九州市補正予算に関する説明書により説明いたします。なお、金額については万円単位とさせていただきます。

8ページをお願いいたします。歳入です。下段、18款2項7目産業経済費国庫補助金の補正額7,700万円は、物価高騰対策事業に係る国の重点支援地方創生臨時交付金でございます。

14ページをお願いいたします。歳出です。8款2項1目商工業振興費のうち上から2番目、中小企業賃上げ・雇用安定化サポート事業経費2,700万円は、物価高や米国関税措置の影響を受ける中小企業における雇用関係助成金のサポートや、最低賃金引上げ、生産性向上に資する設備投資等への支援に要する経費でございます。その下、中小企業等に対する生産性向上支援助

成金経費5,000万円は、同じく物価高の影響を受ける中小企業が行う新商品、新サービスの開発や省エネ投資、効率化、高収益化等、生産性向上の取組への支援に要する経費でございます。

20ページをお願いいたします。14款2項1目農林施設災害復旧費における令和7年発生災害復旧費1,800万円は、令和7年8月の大雨により被災した農地、林道等の復旧に関する経費でございます。

以上で産業経済局所管分の説明を終わります。よろしく御審議の上、御賛同賜りますようお願いいたします。

○委員長（渡辺修一君） 総務部長。

○総務部長 委員の皆様には日頃から港湾行政につきまして格別の御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本日、御審議をお願いするのは、議案第135号、令和7年度北九州市一般会計補正予算についてのうち所管分、議案第137号、令和7年度北九州市港湾整備特別会計補正予算について、議案第140号、令和7年度北九州市空港関連用地整備特別会計補正予算について、以上3件でございます。

それでは、タブレットの令和7年度北九州市補正予算に関する説明書にて説明いたします。金額は万円単位で説明いたします。

11ページをお願いいたします。歳出でございます。2款3項1目企画振興総務費のうち空港推進経費の補正額3,200万円は、北九州空港における韓国、清州線の新規就航に伴う運航助成等に要する経費でございます。

次に、港湾整備特別会計補正予算議案について説明いたします。

29ページをお願いします。繰越明許費でございます。1款1項3目太刀浦第2コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業の翌年度繰越額は2,800万円で、関係者との調整等に日時を要したため、翌年度に繰り越すものでございます。

次に、空港関連用地整備特別会計補正予算議案について説明いたします。

40ページをお願いいたします。歳入でございます。2款1項1目繰越金の補正額3,800万円は、前年度からの繰越金でございます。

41ページをお願いいたします。歳出でございます。1款2項1目繰出金の補正額3,800万円は、北九州空港関連用地における分譲市有地の売却に伴う公債償還に要する経費でございます。

以上で港湾空港局所管議案について説明を終わります。よろしく御審議いただき、御承認賜りますようお願いいたします。

○委員長（渡辺修一君） これより質疑に入ります。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質疑はありませんか。大石委員。

○委員（大石正信君） おはようございます。まず、議案第135号、一般会計補正予算のうち産

業経済局所管の中小企業賃上げ・雇用安定サポート事業、物価高騰に立ち向かう中小企業等に対する生産性向上支援助成金について伺います。

中小零細企業は、今年10月から3,000品目の値上げがされました。また、米国の自動車関税が15%引き上げられ、その上、11月から最低賃金が引き上げられるなど、中小企業にとってみればトリプルパンチになっています。賃上げの原資を確保するために、設備投資や販路拡大、価格転嫁で原資を確保するかどうかが大変な問題になっています。しかし、この制度は対象が限定的だと思います。2つの事業の交付企業数、金額、同制度でこれまで受けた企業がどのような効果、好転したのか伺います。

次に、林道施設災害復旧事業について伺います。

令和7年8月に発生した大雨で、小倉南区5か所で路肩が崩れたとのこと。市の管理地なのか、それとも民地なのか。いつまでに復旧するのか、その工程が決まっていれば、お聞かせください。

第3に、農業用施設災害復旧事業について伺います。

若松区有毛観光農園の、のり面の地滑り、道路の崩れということですが、市有地か、それとも民有地なのか。民有地であれば工事はどうなのか、その復旧や工程など決まっていれば、お聞かせください。

次に、港湾空港局所管の歳出補正、空港推進経費の韓国、清州線、週3便の新規航路に伴う運航助成、集客PR経費3,200万円について伺います。支援額の3,200万円は少ないと考えますが、費用の根拠と、なぜ就航先を清州に決めたのか、選定理由をお聞かせください。

次に、議案第137号、北九州港湾整備特別会計予算について伺います。太刀浦第2ターミナル整備に関わる繰越明許費2,800万円について、関係者との調整等に日時を要したということですが、なぜ工期が遅れたのか、その理由と今後の見通しについてお尋ねいたします。

最後に、議案第140号、令和7年度北九州市空港関連用地整備特別会計について伺います。

北九州空港で国が埋め立てた土地を市が購入し、民間に売却し、特別会計でインフラ整備を行い、売却益を同会計に繰り入れたと理解していますが、今回の売却金額と面積、残る土地の面積と今後の売却の見通しと償還残高を教えてください。以上。

○委員長（渡辺修一君） 雇用・産業人材政策課長。

○雇用・産業人材政策課長 中小企業の賃上げ・雇用安定化サポート事業におきまして、これまでの実績だったり、効果のお尋ねがございました。

今回、補正予算で中小企業賃上げ・雇用安定サポート事業を計上させていただいていますが、2つ取組がございまして、1つが、先ほど御質問がありました賃上げと生産性向上のための設備投資を行った中小企業に対する補助金、これは国の業務改善助成金と言うんですけれども、その上乗せ補助を私どもが独自でさせていただいています。この上乗せ補助を10分の1から今回10分の2に引き上げるというところでございます。この市独自の補助制度、上乗せ補助で

すけれども、令和5年度に創設しました。それで、103件、1,500万円を交付しております。従業員の規模別では、10人以下の企業様が60件と最も多くて、次いで11人から30人未満が37件と、小規模事業者がほぼ占めております。業種別では、飲食業、次いで医療、福祉、建設等々が多くございまして、設備投資も飲食店の冷蔵庫だったり冷凍庫だったり、それから食器洗浄機、そういったものの設備の更新がされているところでございます。この制度、私どもの10分の1の補助によって最大90%の補助率になりますので、ほぼ手出しなく設備投資ができたというところでございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 中小企業振興課長。

○中小企業振興課長 物価高騰に立ち向かう中小企業等に対する生産性向上支援助成金のこれまでの実績と成果ということでお尋ねいただきました。

3,000万円の予算を2月の補正予算でお認めいただきまして、上限でいくと、上限100万円です。30社という想定ですけれども、実績としては38社に交付いたしております。平均しますと79万円ということになってございます。業種は、幅広くいろんな業種の方々から御利用いただいておりますけれども、傾向的には設備投資に係る製造業ですとか建設業ですとか、そういったところが多いというような傾向は出ております。それから、企業規模ですね。38件のうち、いわゆる小規模企業、業種によって異なりますけれども、従業員の方が20名以下ですとか5名以下ですとか、そういった小規模企業の方が25社ということになっておりまして、全体の65.8%ということで、規模の小さい事業者様の御利用が多くなっているというような状況になってございます。

実際の成果ということでございますけれども、例えば、保険の販売代理店さんが遠隔サーバーを導入し訪問営業の訪問数が非常に増加したということですか、在宅ワークの導入が可能になったことによって人材確保とか雇用の安定につながりましたとか、雑貨の製造業さんが専用機器を導入したことによって、これまで外注していたものが内製化できたということで経費も削減できたし商品開発のスピードアップにつながったとか、SNS広告を導入してECサイトを通じた売上げが増加したとか、そういった声も上がっております。また、省エネ投資、LEDを導入したことによって年間の電気代の削減が見込まれるというような声もいただいております。御活用いただけていると認識しております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 農林施設担当課長。

○農林施設担当課長 令和7年8月豪雨による林道と若松区のミカン園の今後の復旧見込みについて回答いたします。

小倉南区においては、林道の路肩の崩壊により5か所で大きな被災が起きたところでございます。これらの林道は基本的に市有地でございますが、一部民有地がありますので、これらの民有地については了解を取って復旧をする予定でございます。年度末の復旧を目標にしておりますけれども、繰越しの可能性も高いと思っております。

それから、若松区において多くの農地が被災しております。この中に若松区の観光ミカン園が入っております。観光ミカン園につきましては、農地ですので、基本的に私有地でございます。この私有地の山林部分が大きく崩壊しております、その中のミカン園の木の農地部分について災害復旧の適用を受ける予定でございます。こちらについては、規模が大きいので、工期としては11月に災害復旧の査定を受けた後、基本は年度末の工事の目標にしておりますけれども、恐らく繰越しの工事になる可能性も高いと思っております。

すみません、私有地というのは北九州市有地ではありませんで、民有地のことでございます。ミカン園は農地ですので、基本的に民有地でございます。林道のほうも、基本的に市ですけど、一部民有地がありますので、民有地については地権者の了解を取って工事に着手しているというところでございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 空港、清州線の3,200万円の、まず根拠からお話しさせていただきます。

今回、補正予算で3,200万円を計上させていただきました。その内訳としては、新規路線の安定化、航空会社への運航助成等として2,300万円、そして、韓国等々、新しい路線ですので、集客、PR、広報の予算として900万円の予算を計上させていただいております。こちらの予算は、我々が航空会社と路線誘致のお話をする中で、こういったことが我々はできますよという交渉の中でしてございます。限られた予算の中ではございますけれども、精いっぱい路線が安定化するよう努めてまいりたいと考えてございます。

もう一点、なぜ清州なのかというところでございます。我々としまして、まず、国際線の誘致でございますけれども、各国との出入国の人数の状況とか需要の動向、それと航空会社の業界関係者との話などを総合的に踏まえまして、今路線誘致をしているところでございます。こうした中、韓国というところですが、九州への外国人の入国者数を見ますと、令和6年は、韓国が247万人で、一番多くございます。今、ジンエアー、北九州～ソウル便も飛んでございますので、やはり韓国からの需要というのは、特にインバウンドを中心に短期的には底堅いのかなと考えてございます。こうした中、エアロK航空にも交渉していく中で、1つは近さですね。九州という場所は先ほども言いましたように非常に近いというのが1つ。それと、エアロK航空は、実は北九州空港に先んじて、今、福岡空港に就航いたしました。こちらは午前中の便でございまして、エアロKとしては、例えば韓国の方が福岡空港にまず入って、北九州空港は午後便ですので、午後、北九州空港から帰る。こういう使い方もできます。福岡空港とのまさに役割分担といえましょうか、相互補完、こういう使い方も活用できるということで今回就航に、どうにか誘致に、こぎ着けたところでございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 工事課長。

○工事課長 議案第137号に関しまして、繰越明許の理由につきまして説明させていただきます。

太刀浦第2コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業につきましては、令和2年度から令和8年度までの中で3基のコンテナクレーンの更新を進めているところでございます。今回、議案に上げさせていただきました工事につきましては、3基目のクレーンの更新に伴います附帯工事でございます。太刀浦第2受電所内の電気盤の改造、それから電源用ケーブルの更新を行うものでございます。更新する電源ケーブルにつきましては、通常品よりも海水等に対する耐性が強いケーブルでございます。ケーブル長も長いものですから、予算計上時は納期を6か月と見込んでおりました。発注に当たりまして業者にヒアリングを行いましたところ、現状では納期に9か月ほどかかるという情報が分かりまして、今年度中に行いますと適正工期を確保することが困難と判断いたしましたものですから、今回、翌年度までの繰越しという事業で計上させていただきました。全体のコンテナクレーン更新事業のスケジュールに関しましては、今回これを繰り越したとて全体の事業進捗に影響がないことも確認しておりますので、今回上げさせていただいた状況でございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 空港関連用地整備特別会計についてお答え申し上げます。まず、今回の分譲地売却の面積ですけれども、4,216平方メートルです。契約金額が1億6,619万400円となっております。空港関連用地の残りの面積ですけれども、850平方メートルでして、分譲済みが今回の売却で97%となっております。見通しにつきましては、現在交渉している事業者様とかはいませんが、今後も北九州空港の利便性向上につながるように取り組んでまいりたいと考えてございます。償還の残高でございますけれども、今回の補正予算に計上させていただいております3,800万円の償還で債務については全部返すということで、残高はゼロということになります。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 物価高騰に対する賃上げの助成が2つで7,000万円ということで、非常に物価が中小業者を苦しめていると。トランプ関税と、そして11月から始まる最低賃金の引上げ。最低賃金の引上げは、消費を喚起し、雇用にとっては大変喜ばしいことですが、中小業者に対してこれが非常に圧迫になってきていると。賃上げの原資を確保するために価格転嫁だとか販路拡大とか生産性向上というのは分かるんだけど、果たして中小零細企業がそういうふうになれるのかと。この金額も、7,000万円に対して2つ合わせて70社程度となっていますよね。国の制度がもっと拡充されていけばいいと思うんだけど、そうっていないんで、上乗せを10分の1から10分の2にされたというのは私は評価をしたいと思います。しかし、これでもいいのかと。今、倒産件数が増えているという状況の下で、この前の決算特別委員会で言われたのは、原資を確保するためにコストを50%削減しているということが言われましたけど、どんな形でコスト削減をされているのかとか、また、価格転嫁がされているのは2割から3割と言われましたよね。今、東筑軒が売上不振になって物価高騰で事業を譲渡するとか、J R博

多駅も資材単価や人件費高騰で空中都市を断念するとかという状況になっていますけど、その価格転嫁だとかコスト削減というのはどんなふうになっているか、分かったら教えていただきたいんですけど。

○委員長（渡辺修一君） 中小企業振興課長。

○中小企業振興課長 価格転嫁、それからコスト削減ですね。コスト削減については、中心となってくるのはD Xとかそういったところなのかなと思ってございます。それから、付加価値向上ですね。どれだけ自分の会社の商品、売り物に対して価値を高めていくのかというブランディングも重要になってきようかと思っております。全体的に価格転嫁の状況、消費者物価が上がってきていますと。一方で、仕入れというと企業物価のほうになります。消費者物価と企業物価の差の価格転嫁をどうするかというところになるんですけども、誰に対して売るかというところですね。消費者向けのB to Cの事業ですと、なかなか価格転嫁は難しい。そうなってくると、ブランド力、商品力を高めていかないといけないということになりましょうし、B to B、事業者同士の卸ということになると、まずは価格交渉をしていただくと。価格交渉するときに、商品を買ってもらっている立場でするので、なかなか受注側から言いにくいと。そこは、一つは機運の醸成というところが非常に大事だと思ってございます。なので、国のキャンペーンに合わせて、市でも価格転嫁のお知らせを発するとか、価格転嫁を呼びかける取組を支援してみたりとか、あとは、どうやって価格交渉しましょうかというところで原価をどうやって売り先に提示していくとか、そういったところのアドバイスとかを差し上げるというような取組を進めているところでございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 中小零細、小規模業者の賃上げは価格転嫁への抜本的対策が急務になっていると思います。下請という圧倒的に弱い立場に置かれている企業への販売に転嫁するどころか、単価がたたかれ、違法な値上げを強要されています。こうした現状から、岩手県、徳島県など、最低賃金の引上げと中小企業への支援をセットにしています。群馬県では、直接支援を行った結果、市内の消費が増え、地元中小企業が潤う好循環となっていると言われています。このように、中小企業に賃金を直接支援することで結果的に好循環につながっている。世界的にも、アメリカやフランスなどは賃上げとセットで中小企業の支援を行っています。今回、国の制度に10分の1から10分の2上乗せしましたが、徳島県の賃上げ応援サポート事業は国の業務改善助成金に上乗せをしています。市が単費で難しければ、国の制度に現在やっている上乗せを拡大するとか、そういう中で対象を広げるやり方や、国の制度の対象を広く支援する横出し、上乗せと横出しですね。そういうものも含めてぜひ検討していただきたいということですけど、見解ありますか。

○委員長（渡辺修一君） 雇用・産業人材政策課長。

○雇用・産業人材政策課長 本会議、それから市長質疑を通じまして、私どもとしては持続的

な賃上げのためには、原資の確保が何よりも重要だと考えていまして、先ほど例示がありましたような価格転嫁であり生産性付加価値向上の支援をしっかりとやっていくという基本的な考えの下、今回、補正予算も計上させていただきました。岩手県などと同様の賃金そのものを直接支援する補助制度の創設は今のところ考えておりませんが、引き続き、国の動向等々を注視しながらしっかり情報収集、勉強に努めてまいりたいと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 私、何が言いたいかというと、価格転嫁がなかなか進まないというのは、飲食店で今まで500円のラーメンが1,500円するのかと、こうなればお客さんは減りますよね。だからといって、賃上げしなければ人手が集まらない。生産性向上といっても、小さな飲食店が、さっき言ったレジスターを入れるとかクーラーを入れるとかというのはできますけども、圧倒的大多数の中小零細企業が支援を受けられないという現状があるわけですよね。そういう中で、さっき言った徳島県とか岩手県がやっているのは、そういう状況の下で直接賃金に支援することによって社会保険の事業主負担料を軽減していく。先にこういう何百億円と投入したことが結果的に消費を呼び込み、中小企業が元気になってきているという状況があるわけですよね。だから、最低賃金が引き上がっていけば逆に中小企業の体力が失われてくるような状況になっては意味がないと思うので、世界的には最低賃金と併せて中小企業支援をセットでやっているという状況なんで、直接支援ができなければ、上乘せとか横出しとかというのをぜひ検討していただきたいと思います。

次に、林道の復旧ですけども、市有地であれば当然、災害復旧についての助成ができると思うんですけども、ミカン畑だとかのり面だとかということは一部民地が入っているということですけど、一部民地についても助成の対象になるのでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 農林施設担当課長。

○農林施設担当課長 林道の場合は、民有地といいまして道路区域、林道区域に入った民有地でございます。ですから、構造上、どうしてもそこに路肩の擁壁を建てる必要がありますので、そこはやむなく地元の了解を得て工事をするということでございます。ミカン園につきまして、農地は基本的に全部民地ですので、国の制度として農地に対する災害復旧の制度が確立されているところでございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 必要な経費だと思うし、民地についてもそういうことで対応できるということで、頑張ってくださいと思います。

次に、清州空港への支援で、ホームページを見たときに、フライト時間が15時半出発で到着が16時45分、もう一便が17時25分となっているから、なぜ夕方なのかなということで疑問に思っていたんですけど、福岡空港が午前中の便になっているから夕方の便を北九州空港で確保していくということですよ。3,200万円というのは年度途中ということで少ないということだと

思うんですけど、その確認ですけども。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 今、委員がおっしゃいましたように、なぜ夕方かと。いろんな要因がございまして、1つはエアロK航空の機材繰りの問題ですね。航空機をうまく活用するための機材繰りが1つ。それと、清州空港の、スロット枠といいますけど、要は滑走路の発着枠ですね、その時間帯。それと、福岡空港との役割分担。福岡空港で午前なので、営業的には午後北九州というのが非常に売りやすい。こういったいろんなことを複合的に考えて、この時間になっているところではございます。

それと、3,200万円でございますけど、おっしゃるとおりでございますして、9月30日に就航いたしましたので、年度途中だからということでございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 了解いたしました。次に、太刀浦の第2ターミナルについてですけども、工期が遅れたということですけども、私も8月に太刀浦コンテナを視察してまいりました。働いている人の環境が、仮設トイレであったり、休憩室も仮設であったりとかということで、ガントリークレーンが3基工事されるということですけども、今まではトイレもない、エレベーターもないという状況だったんですけど、それが今度改善されればどうなるのか。それと、全体的に老朽化が進んでいますよね。その機材についてどうするのか。また、働いている人の環境について、今後ミストだとか熱中症対策、そういうあたりはどのように考えておられますか。

○委員長（渡辺修一君） 工事課長。

○工事課長 ガントリークレーンの更新に関しましては、現在の機能、エレベーターとか、そういったものはしっかり装備させる形で整備をしてございます。新しいガントリークレーンをつけることによりまして、今回附帯工事を出してございますけども、周辺の附帯する工事に関しましてはできるだけ新しいものに替える、そういった工事を進めているところでございます。全体的な労働環境というところになりますと、今そこを使っていられっしゃいます事業者さん、それから我々といういろいろ意見交換をする場を持ちまして、港湾空港局として何かできること、あるいは事業者さんをお願いすること、そういったことを整理しながら対応しているといったような状況でございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 施設も老朽化してきて、ガントリークレーンの更新や、倉庫も古くなってきているという状況があります。国の指針が出されていますけども、何よりも働いている人の環境が、男性中心の港湾労働者であったことから女性トイレだとか、また、熱中症対策についても指針が出されていますよね。だから、これまではあまり気にしていなかったことかもしれないんですけども、働いている人たちの労働環境、それも機械と一緒に対応していただきたいということを要望します。

最後に、空港の関連特別会計についてですけれども、残る土地が今97%で850平米ということになっていますけど、どういう企業が来て、何をされるのか。売却について、残り僅かですけれども、今後の見通しとかあれば教えてください。

○委員長（渡辺修一君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 空港関連用地につきましては、空港の利便性を高める空港関連の事業者様が立地、進出するような土地ということで開港時から分譲を行っておりますので、空港の利便性向上、空港島の土地活用がうまくいくような事業者さんに来ていただくよう、今後、誘致等に取り組んでまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） どういう企業に売却できたんですかね。

○委員長（渡辺修一君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 空港関連用地、土地の広さは約4ヘクタールございます。今現在、立地しているのが、例えば東横インさんですとかスターフライヤーのトレーニングセンターですとか、滑走路のほうに近づきますと小型機の格納庫とかスターフライヤーさんの格納庫ですとか、そういった方々が立地をされてございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 今回売れた企業は。

○委員長（渡辺修一君） 空港機能強化担当課長。

○空港機能強化担当課長 今回購入されました事業者様は、購入した土地でドローンの開発ですとか製造、それから試験飛行などを行う事業計画を持たれてございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 順調に売れて、あと残り土地が少なくなっているということですが、ぜひ今後とも整備を進めていただきたいということを要望して、終わります。

○委員長（渡辺修一君） ほかにありませんか。上野委員。

○委員（上野照弘君） 質問させていただきます。

まず、大雨で被害を受けた農地についての質問というか確認をさせていただきたいんですけれども、まずもって農林担当の職員の皆様方、被災された農家の皆さんにしっかり寄り添っていただいて早期復旧に努めていただいていますこと、心から感謝を申し上げたいと思います。農家の人もそうなんですけれども、林道の復旧とかに関係する工事業者の人も、今回、農林の人たちは一生懸命動いてくれていますよというお声も聞いています。本当にありがたいなと思っている次第です。確認と思って聞かせていただきたいんですけれども、まず、さっきの御答弁の中で、11月に災害復旧の査定を受けるということなんですけれども、この査定というのはどういうふうにして受ける、プロセスというか、査定の中身について教えていただきたいと思います。

若松区のミカン園なんかにしますと、年度内の復旧は相当難しいだろうなという規模が崩れていますので、恐らく年度を繰り越すんじゃないかなと思います。そんな中で、ミカン園の方に今期のできているミカンをどう売りますかということを知ったら、ミカン狩りができない、ミカンを狩りに来るお客さんを通すための道が崩れてしまっているのです、お客さんを農園に入れるわけにいきませんから、恐らく全量直売になる、全量出荷する形になろうかなと思いますということでした。この被災した農家の経営支援というか、今まで全量直売なんかされていなかったでしょうから、多分大きなハードルを迎えると思うんですよね。被災した農家さんの直売所とか経営支援というか、そういうお手伝いとかお助けをできるような方策はないのかなと思いますので、そこをお答えいただきたいなと思います。

それと、清州線なんでありますけれども、正直、僕もあまり韓国は詳しくないんですが、清州という地域の町の名前は初めて聞いたなと思っています。でも、何となく、韓国ですとソウルとか釜山、釜山でいえば海鮮が有名ですよとか、済州島でいえばサバが有名ですよって、御当地の売りとなるものが何かあると思うんですけども、清州というのはどういうものが売りなのかというところを教えてくださいなと思います。

また、エアロKさんとの新たな路線の就航を一生懸命に御尽力されたと思うんですけども、観光ラインの人たちと一緒にやるようなこと、例えば北九州市役所の観光ラインの人も連れて行って、実際に清州をいろいろ見てもらって、清州の魅力ってこういうのあるんですよって、観光ラインから北九州市民に向けて発出するようなことというのはあるのかなということについてお答え願いたいと思います。

○委員長（渡辺修一君） 農林施設担当課長。

○農林施設担当課長 まず、農地復旧の査定の手順についてお答えしたいと思います。

国の査定は、査定官という方がいらっしやいまして、実施設計とか測量結果を基に復旧工法を決めております。その復旧工法が適正であるかどうか、そういったところをまず査定することになります。ミカン園につきましては大きく山林部分が崩壊しておりまして、農地部分は割と少ないですので、山林部分の崩壊については今、別の事業手法を使うことを検討しているところでございます。それから、ミカン園内の通路が被災しているものですから、通常時、観光に影響が出ております。これにつきましては、工事の中で仮設道とか造って、仮設道を園内通路に利用できないかとか、そういった検討もしていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 清州線でございます。清州市でございますけれども、人口が約85万人で、ソウルから南にちょっと下がったところの中核都市と言えるのではないかなと思います。韓国の歴史的な名所だったり豊かな自然、あとドラマのロケ地なんかも幾つかあるという、そういう場所ではございますが、今委員がおっしゃいましたように、韓国といえばソウル、釜山とか

が有名というのは否めないかなと思っております。我々も事前に清州市の観光部門とかと協議をいたしまして、一緒に、清州に日本人を送り込むための方策、例えば清州に着いたら観光バスツアーがあるとか、そういうのを今協議しているところでございますので、清州とも一緒になってそこは取り組んでまいりたいと考えてございます。

あと、清州ですけれども、清州市だけでなく、テジョンという、大田って書くんですけれども、今パンで有名な町なんですけれども、これは結構大きな町でございまして、こちらまでは特急で1時間程度、車でもそれぐらいのところもありますので、清州市だけではなく、大田とかという新たな韓国の魅力を発見していただけたらと思ってございます。

あと、もう一点でございます。本市の観光部門と一緒に共同してのPRでございますけれども、どうしても観光部門はインバウンドのほうが強くはございます。実際に、8月24日から30日までなんですけれども、我々空港部局と観光部局と一緒に清州空港に向かいまして、清州空港で1週間、一番いい場所を使いまして、PR、キャンペーンをやってまいりました。アンケートを取ったり、答えてもらったらノベルティーをプレゼントとか、そういうのもやってございます。それと、9月30日に就航しましたけど、韓国の旅行会社もファムツアーといって、北九州市の観光地を見てもらうようなツアーも旅行会社の人を招へいしました。それも観光課、インバウンド課と一緒にやって取り組んだところでございます。こういったところで、インバウンドに関してはインバウンド課、都市ブランド創造局とも一緒にやっていくんですが、どうしてもアウトバウンドになると空港部局が一番メインになるのかなと思ってございます。ただ、市全体として一生懸命、インもアウトも取り組んでいきたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 農林課長。

○農林課長 ミカン園の経営支援についてお答えいたします。

委員御指摘のとおり、観光農園ですから、観光客が入れないと販売先というところで苦労するところでございますので、北九州市としましては直売所との橋渡しでありますとかPRのほうで支援してまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 上野委員。

○委員（上野照弘君） ありがとうございます。ぜひ経営支援を。ミカンは、多分、今年と来年ぐらいまで大変なんじゃないかなと思いますんで、側面的にPRとかお手伝いできるようなことがあれば、ぜひやっていただきたいなと強くお願いをさせていただきたいと思います。

また、清州でありますけれども、いずれ僕も行ってみたいなと思っています。北九州市の女性の方は、近いというのもあって、韓国好きな女性の方もいらっしゃるしまして、かつて釜山便があるときなんかはすごく北九州市からたくさんの方が行っていたんですけれども、それがなくなるとき、非常に残念がられている人たちもたくさんいらっしゃいました。今回、清州というところで、ちょっと地方都市でありますけれども、そこにはその魅力が間違いなくあると思いますから、ぜひ北九州市民もどんどん使っていただけるような路線になっていただきた

いなど、僕も微力ながら応援していきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（渡辺修一君） ほかにありませんか。菊地委員。

○委員（菊地公平君） 空港のことだけ少し。清州便が飛んだというのは喜ばしいことだなと思っています。エアロKというのはLCCということだと思っんですけども、北九州空港の今後の旅客便の方針としてLCC中心に誘致していくという形になっていくのかというところと、あと、今回エアロKの就航に当たって年間どれぐらいの利用というのを見込んでいて、今年度末で北九州空港の利用者数がどれぐらいと見込んでいるか、その辺、分かれば教えていただきたいと思います。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 路線誘致の方針としてLCC中心かというところでまずお答えいたします。北九州空港は、平成26年に福岡県が将来構想をつくったときに役割分担と相互補完ということで、福岡県の構想上は、LCCは北九州空港を中心に誘導していくという構想はございました。ただ、一方、北九州空港は、LCCだけではございません。LCCも安い料金で市民に対する利便性もありますし、多くの方が来ていただけるというところではございますが、フルサービスキャリアも誘致しているところでございます。これは、LCCはもちろんですが、フルサービスキャリアも同時に誘致していきたいと。ピンポイントというわけではないと思っていただければと思います。

それと、人数でございますけども、仮になんですが、こちらは180人の座席提供でございます。週3便でございますので、仮に搭乗率が80%となった場合ですと、往復にはなりますけども、年間4万5,000人ぐらいの利用者数になろうかと思っています。今現在、昨年の利用者数が120万人ですので、その他の路線も頑張っているところではございますが、120万人からしたら4%弱ぐらいになると思いますけども、エアロKもそれがオンされると考えております。エアロKは今、週3便ではございますが、利用者をどんどん増やしていくと、これがデイリー運航となると週7便になりますので、そういった形で路線を成長させていきたいと思っています。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） 分かりました。先ほど上野委員が言ったのと同じなんですけど、インバウンドに関してはかなり韓国の方の日本に来る需要というのは感じるころではあるんですけども、一方、アウトバウンドで日本から韓国に行く方、特に清州とか聞いたことないところに行くというところも含めて、そこが一番の課題になってくるのかなと思うんですけども、先ほど向こうに行ってPRしてアンケートも取ったということなんですけど、そのアンケート結果とか、もし参考になることがあれば教えていただいていいでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 清州空港でのアンケートでございますけども、日本旅行の経験ある方が

約8割、5割弱が4回以上経験しているということで、清州空港を使っている方も旺盛な旅行意欲があると考えております。あと、旅行の情報の収集でございますけども、インスタとかブログ、インターネットなどが圧倒的に多くございました。また、北九州市のことですけども、約半数は知らないという状況ではございました。北九州市へ訪問したことがない方が9割弱、訪問したことがあるという方の中では8割がF I T、いわゆる個人旅行者でございました。こういったことから、ソウルでも実際、韓国人の気質といいましょうか性質としてはそうなんですけど、SNSとかウェブ、こういったものを活用した戦略、PRというのが特に効果的ではないかと我々としては考えております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） 分かりました。逆に、日本人というか北九州市民というか、アウトバウンドに関する施策というのは今どういったことを具体的に検討されているんでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 アウトバウンドでございますが、第1には、今委員の皆様がおっしゃられましたように清州を知らないということで、知っていただくというのが第1弾かと思っております。このため、チラシなんかも4万枚ほど作成しておりますし、ポスターも300枚ほど作って、公共施設とか人の目につくところに貼っているところでございます。それと、大学とか圏域の自治体、苅田、行橋とか遠賀4町とかにも回って、そういったところに全部ではないですけども訪問して、PRしているところではございます。それと、キャンペーンとしては、パスポート取得応援キャンペーンというのを今ソウル線でもやっているんですけども、パスポートを新たに取得して清州線を使った場合に最大5,000円補助するというキャンペーンとか、海外線に限っては駐車場を、もともと24時間600円で安いんですが、それを2日間無料にするというキャンペーンなどをして、福岡空港との差別化を図って、北九州市民、圏域の皆様に利用していただく方策を取っているところでございます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） 韓国はSNSが効くという話なんですけど、逆に日本のほうはそっちの戦略とかはないんですか。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 委員おっしゃいますように、特に清州線は個人旅行者が結構行くのではないかなと。LCCということもありまして、直接ホームページで買ったり、オンライン・トラベル・エージェントといいましょうか、OTAといいますけども、そういったところで買う人も多いのではないかなと思ってございます。このため、そういうオンラインの旅行会社さんとの提携だったり、あと、エアロKのホームページなんかでもキャンペーンを打ったり、あと、北九州空港でLINE登録なんかも1万2,000人ぐらいいますので、北九州空港をフォローしている方にPRしたり、チラシ、ポスターとか地道なティッシュ配りとかももちろんやるんです

が、オンラインを使った広報もやっていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） 今、ジンエアーもあってエアロKということで、だんだんLCC化の方向を向いてきているなと何となく思っています。いずれにしても地道なPRでやっていくしかないのかなと思いますので、引き続き頑張っていっていただければと思います。私からは以上です。

○委員長（渡辺修一君） ほかにありませんか。井上委員。

○委員（井上しんご君） 中小企業賃上げ・雇用安定化サポート事業2,700万円の件について伺います。

最低賃金の引上げということがありました。主に中小企業ということで、最低賃金、この前、7月31日に福岡地方最低賃金審議会がありまして、そこに外国人の技能実習生の方が、全国では初めてですけども、最低賃金の引上げを求めて陳述されております。その方はミャンマーから来られている方で、来るときに100万円ぐらい借金をして、手取り収入から10万円から15万円を仕送りして、残り5万円ぐらいで生活していると。最低賃金の引上げをということで切実な声で、随分報道等もされております。ここでお伺いしたいのが、最低賃金の引上げにこの事業が活用されるということの担保について見解を聞かせてください。

それから2点目ですけども、雇用の安定の面でという件に関して、先ほどの技能実習生の話にもあるように、5万円の生活費の中で、会社側から、寮費が無料だったものが、来月から3万5,000円払ってくれと言われて非常に困っているということも新聞でも報道されておりました。ぎりぎりのところで働いている方にとっては心がくじけるような話だと思うんですけども、こういった部分での産業経済局としての調整とか、雇用を守る、安定させるためにどこまでできるのか聞かせてください。

次、物価高騰に立ち向かう中小企業等に対する生産性向上助成金5,000万円の件です。先ほど、お話をお伺いすると、主に小規模企業の利用があっているというお話でした。新商品、新サービス、そういったさらなる事業展開とかイノベーションにつながると思うんですけども、新商品、新サービスでこれは面白いというものがあれば、例示ができるのがあれば教えてください。これが3点目です。

次に、清州線の新規就航の件でお伺いします。調べると、清州はサムギョブサルの発祥の地だと言われております。旅行商品も、阪急交通社で、エアロK直行便利用、韓国5都市周遊4日間で販売されております。こういった旅行商品の今現在の売行きについて、出だしがどういう状況かについて教えてください。

サムギョブサルの発祥の地って、調べて初めて分かったことなんですけども、北九州市も、肉つながりでいえば肉うどん発祥の地でもありますし、ホルモンの発祥は田川とか筑豊地区、または北九州市とも言われております。こういった部分でのグルメの交流であるとか、清州は

人口85万人で北九州市に似ていると思うんですね。私も韓国といえばソウル、釜山しか行ったことないんですけども、韓国からすれば、それは東京、大阪のイメージで、歴史が好きな方は京都、日本だったら慶州となると思うんですね。でも、北九州市も魅力的なところはいっぱいありますし、まだまだ知られていないと思うんですけども、こういった部分で、同じ規模の都市同士、当然、清州市としても外国人観光客を受け入れたいと。北九州市もそう思っているという部分での同志というか仲間として、これから友好関係に努めてもらいたいと思うんですけども、先ほども議論があっていますけど、この就航についてのさらなる事業展開、発展について、市民交流も含めてどういった展望があるか教えてください。

次に、令和5年、光州市の国際線業務を担っていた務安空港との定期便がありました。ハイエアさんがやっていたんですけども、経営破綻したということで、今はありません。当時も、光州市は映画の町で、いろんな映画の舞台として、最近の映画でもあるし、NHKでも特集で光州事件を取り扱った報道があるように、私もそういった認識なんですけど、光州っていいなと思っていましたけども、今は航路がないということで。しかし、その後、スターフライヤーさんが令和6年度に、9月14日から18日に12便、4月9日から6月15日まで40便とチャーター便を飛ばしております。ですから、まだまだ務安とのニーズというか、光州を含めたところのものが韓国内でもあると思うんですね。今後、廃止された務安線の復活等について、これはたまたま事業破綻ということで残念ながらなくなったものなんですけども、どのように考えているのか見解を聞かせてください。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 井上委員、すみません、務安線は議案に関係のない、関連することなんですかね。

○委員（井上しんご君） 清州の関係でですね。

○委員長（渡辺修一君） よろしいですか。じゃ、関連してということで。御答弁をお願いいたします。雇用・産業人材政策課長。

○雇用・産業人材政策課長 中小企業賃上げ・雇用安定化サポート事業に関連しましてお答えさせていただきます。

今回の補正予算ですけども、2,700万円計上させていただきました。それで、2つ取組がございまして、一つが、先ほども少し答弁しましたが、賃上げと生産性向上のための設備投資を行った中小企業に対する国の業務改善助成金の上乗せ補助を2,000万円分用意させてもらっています。補助率は10分の1から10分の2に引き上げて、10分の2が適用されますと最大で95%の補助率となります。この2,000万円と、当初分を含めると2,500万円ございまして、今回、平均で1社当たり15万円ぐらいの御利用がこれまでございました。これが仮に2倍になるとすると1社当たり30万円の交付になりますので、約80社分を用意しています。それともう一つ、国の賃上げをサポートする助成金というのは、この助成金だけではなくて、非正規で働く方々の処遇改善を行う事業者に対するキャリアアップ助成金、それから、業務の効率化を通じて時間

外の削減、それから年休取得に取り組む事業者の働き方改革推進助成金などがございます。こういった補助金を御活用いただく視点で専門家によるサポートセンターを10月の早い時期から稼働させようと思ってしまして、その経費が700万円、合計で2,700万円となっています。これまでも、国の業務改善助成金ですけれども、知らないという企業さんもたくさんいらっしゃいますので、セミナーを開催して周知をしたりとか、私どものネットワークを活用したメルマガ、それから市政だよりとか、そういったものにも載せていきながら、一社でも多く御活用いただければと思っております。

それから、雇用施策全般という話でございますけれども、今回の補正予算で計上しているわけではないんですが、賃上げをすると労働者の皆様の所得が上がります。一方で企業様にとっては、今、賃上げをしないと人材が確保できないというふうなフェーズに変わってきています。企業様に対しては、人を大切にする人的資本経営セミナーを経営者向けに毎月開催しております。また、企業では人手不足に悩んでいまして、定着にも悩んでございます。そういったところについても個別コンサルティングをやる中で、企業様の不安や、どう解決したらいいかなどの支援をしているところでございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 中小企業振興課長。

○中小企業振興課長 物価高騰に立ち向かう中小企業等に対する生産性向上支援助成金、何か面白い取組ということで御質問いただきました。皆様、様々な取組をされていまして、何ををもって言うとなかなか難しいんですけども、なるほどなと思いましたが、音楽教室さんがオンライン配信設備を導入して効率的に大人数で音楽教室を開催するようになるとか、あとは、建設業の方が来客対応のカフェスペースを事業所内に設置して、より詳細な打合せですとかもともとの売上確保ですとか、そういった取組につなげるというようなところが、いろんな取組がある中でもなるほどと思ったものはございました。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 清州線でございますけども、阪急交通社さんが旅行商品をつくっていただいております。こちらは、せっかくのアウトバウンド向けの旅行商品ですので、我々もいろんなところで配ったり、PRは積極的にさせていただいているところでございます。売行きについては、個別の企業様の情報にはなってしまいますが、阪急交通社さんも積極的に頑張っているところでございます。

あと、清州線のさらなる事業展開でございます。先ほど、ファムツアーというお話をさせていただきました。韓国の旅行会社さんに既に北九州市にお越しいただいております。そのときに、実はそのタイミングを狙って、日本のホテルとか飲食店などのインバウンド関係事業者さんもお集まりいただきまして、商談会というか交流会という場を設けました。韓国の旅行会社と日本のインバウンド関係者、ここで実際に商談なども行われて民民の交流が進んでいく、こういう場を設けたところでございます。我々、北九州市も清州に行って清州市の人ともお話

していますし、民間もそうですし、行政の交流もどんどん増やしていったら、利用者もどんどん増やして、まずは安定化させて路線数を増やす。デイリー、行く行くはダブルデイリーとか、どんどんそういうところを目指してまいりたいと考えてございます。

務安線につきましては、今回飛びましたジンエアーのソウル線もございます。清州も飛びました。清州路線というのが、ジンエアーのソウル線が飛んでいたというところで、清州路線もある程度予想を見ながら飛んできたというところもあろうかと思います。務安線についても同じ韓国でございますので、引き続き頑張っていきたいと思っています。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 井上委員。

○委員（井上しんご君） 分かりました。最後に、最低賃金のところで、制度のことはよく分かったんですけども、先ほど非正規を正規化するとか最低賃金を引き上げるという部分での担保というか、着実にそういったことが行われているかについての、その辺をそうなるようにサポートする、またチェックする機能というのはあるんでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 雇用・産業人材政策課長。

○雇用・産業人材政策課長 最低賃金については法令で引き上げることが義務づけられておりますので、引き上げているか、このチェックは労働基準監督署であったりとか国の機関でやられていると思います。ホームページ上にそういった賃上げをサポートする特設サイトを国が設けていまして、支援策であったりとか活用事例とか、あと賃金のベンチマークなんかも載っていたりしますので、そういったものも私どもホームページに掲載して周知を図っているところでございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 井上委員。

○委員（井上しんご君） 分かりました。非正規から正規とか、雇用の安定が図れるように願っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ほかにありませんか。三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） 数点お伺いします。

まず、清州線ですね。先ほどからもたくさん議論が出ているように、行った絵を映像で流しただけだったらリアルにイメージが湧くのかなと。どんなところで、どんな御飯を食べて、よくグルメツアーとかテレビとかでもやっていますよね。SNSもそうですし、できれば旅行会社とかとタイアップをして、そのツアーで実際にどんなところに行ってどんなふうになって、リアルに伝わってくるので、おいしそうとか、ここ行ってみたいというのが非常に効果的なのかなと思います。その点について1つ。

それから、賃上げについては、非常に大事だとは思いますが、僅かな賃上げになってしまうと、逆に社会保険料とかいろんなものが上がってしまって実質収入が減るということもあるんですね。ですから、そのあたりは、いろんな御相談とかもあるかもしれませんが、十分注意をしてあげてほしいなと。数千円ぐらい上がったなら逆にマイナスになるということもあっ

て、私も自分が経営しているときはそれに気をつけながら、かえってマイナスにならないようにぎりぎりのところでやったりということもやっておりましたので、そこが気になるな。中小企業は、本当に厳しい中で、それでも僅かに上げてあげたいと思って上げたものの、実質収入が減ってしまっただけは何もならないので、ぜひその点も注意をしていただきたいなと思います。

それと、例えば今回のサポートで賃金を一旦上げてしまったら、今度、下げられないんですよ。サポートがある間は何とかなるんですけど、サポートがなくなったら、その間に企業努力をするということもあるんですけど、倒産するということも考えられるので、御相談受けられたときにきちんとその点も含めて、過度な賃上げをやり過ぎると逆に雇用が持続できない結果にもなってしまいうんではないかなというのは一つ気になっております。ぜひ、そういう御相談があったときに注意して御指導いただけたらと思います。

それともう1つ、最後、今回、若松区は非常に大きな被害が出て、農地の被害が大きかったと思うんですが、農道の横の溝にいつも土砂等がすごくたまってしまって、どうしてもたくさん草が生えたりしているところなんではないかなというのはあるんですが、水が全然流れなくて、結局、上を全部流れて下に落ちていったというようなこともお聞きをしております。特に大雨が来る前、ある程度予測ができたり、年に何回か農道の清掃みたいなことができないのかなと思いますが、その点についてもお聞かせください。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 旅客営業担当課長。

○旅客営業担当課長 清州でございます。今、委員がおっしゃいましたように、映像で見る、動画等で見るというのは心に來るもの、写真を見る、テキストで見るのとは違うのかなと思ってございます。特に、清州自体のPRというのは、先ほど言いました清州市の観光部門の方だったり、あと、日本でいうと韓国観光公社という観光部門みたいなところも福岡にございます。我々は、韓国観光公社とも密に連絡を取り合って、日本から韓国に送る体制は取ってございます。今ある映像、私も全ては把握してはいないんですけども、清州の映像、まずそれを活用して、我々は北九州空港から行ってもらい、ここに力を入れるところもあると思いますので、そういった既にある素材も活用しながら、北九州空港から行ったらこんなに便利なんだよ、清州はこんなところなんだよというのはまず一つ検討したいところでございます。あとはインフルエンサーの活用なども今大きいと思いますので、いろいろな方策を検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 雇用・産業人材政策課長。

○雇用・産業人材政策課長 僅かな賃上げでも社会保険料が上がって実質収入が減るというお話がありました。就労支援施設の中で御相談に来られる方々が、いわゆるこれ以上増やすと社会保険料が賦課されるよと、だからここまで働き控えするんだみたいな御相談があつています。まず私どもとして取り組んでいるのは、制度そのものをしっかり御理解いただくこと。その上で、御家族の収入状況等々踏まえて、どこまで働いたらいいかというふうなアドバイスは

させていただきます。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 中小企業振興課長。

○中小企業振興課長 御指摘の賃金を一旦上げるとなかなか下げられない、以前から賃金の下方硬直性ということで御指摘されていることだろうと思います。だからこそと申しますか、稼ぐ力を何とか高めていただくと。一過性の期間が過ぎた後もどうやって稼いでいくのかということで、中小企業支援センターなどでブランド化であったり専門家派遣であったりをしていますので、我々も御活用をPRする必要があるなとも思っておりますし、そういった支援を引き続き取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 農林施設担当課長。

○農林施設担当課長 農道の横の溝の清掃に関しての御質問でございます。その溝が用水路であれば、通常時は地元の方に清掃をお願いしているんですけど、今回の大雨のように急激にたまったときは、各農政事務所に言っていただければ清掃するようにしております。現に、今回の大雨でもたくさんそういった話が出て、緊急で対応しているところでございます。ただ、水路がまちづくり整備課の通常の水路である可能性もあるので、その辺は一度御連絡いただければ、どちらの所管になるか判断して対応したいと思います。

○委員長（渡辺修一君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） ありがとうございます。清州線に関してはPRをしっかりやっていただきたいと、お願いいたします。

それから、賃上げに関しても、本当に中小企業は利益がない中で、必死で賃上げしないと人が来ないからというので努力はされていると思うのですが、一時的に補助が入ったからといって上げて後々困るようなことのないように、先ほども指導もしていただいているということでございましたので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、農道についても、いつも溝をきれいにというわけにもいかないとは思ひますが、地域から全体で御要望があつたときは、今回のように大雨が降つたときにいろんな被害が出るんですね。民地もそうですけれど、意外に溝が詰まっていゐあふれて外に出ることが結構あつて、できるだけ御配慮いただきたいと要望させていただきます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ほかにございせんか。

ほかになれば、以上で議案の審査を終わります。

次回は10月6日午前10時に開会いたします。

本日は以上で閉会します。

経済港湾委員会 委員長 渡 辺 修 一 印